

～ 当会活動報告 ～

「おりお未来21協議会」先進地視察会

10月26日、おりお未来21協議会では、折尾駅周辺開発の先進地視察として、熊本市電の「上熊本駅」、「熊本まちなみトラスト」、久留米「六角堂」、「花畑駅」周辺を訪問しました。「上熊本駅」は、洋風建築の名作と評価が高かったのですが、九州新幹線の高架で駅舎の一部（表の面）が移築され、映画の撮影所の「張りぼて」のようでした。

「熊本まちなみトラスト」は、「歴史的建造物を単に遺産として保存するのではなく、活用すべきもの（生き物）としてとらえて、様々な取り組みを行っており、その日は、駅の軒先の狭い場所（幅2m程）で音楽会を開催するとのことで、市民に愛されている駅というのが感じられました。

久留米「六角堂」は、中心市街地「六ツ門アーケード」に隣接した広場で、名前の由来となった六角堂がありました。現在は、「六角堂」を模写した円形イベント広場を中心として、当会の「人にやさしい街づくり部会」が目指している『タウンモビリティ』の拠点の六角堂プラザ（無料休憩スペース、多目的トイレ、市民ギャラリー）サテライトスタジオ、常設ステージ、商業施設等があります。（モビリティの意味：移動性）

『タウンモビリティ』は、イギリスにおいて「ショッピングモビリティ」として生まれました。それは1981年、買い物に行きたくても行けない、外出困難な高齢者を支援しようというショッピングセンターの取り組みで始まりました。産業の多様化により、ウーバーハンプトン市の経済事情は非常に落ち込んでいましたが、「ショッピングモビリティシステム」を導入し、各地から買い物客を引き寄せることに成功しました。そのシステム日本に導入された時、「ショッピングモビリティ」がまちづくりにも活かせるということで、名称が『タウンモビリティ』になりました。

外出支援を行うことにより、街の空洞化を防ぎ、居住人口を確保し、街の核として中心市街地の機能を確保し、活性化が図れます。更に、多様な立場（市民や企業）のボランティアが、事業実施にかかわることで、市民参加型の街づくりを実現することが可能となります。現在、折尾駅の活用方法が検討されていますので、これを是非、参考にしていただけたらと思います。

「バスハイク」懇親旅行

11月1日、（株）総合システムのご厚意で「バスハイク」に行ってきました。

今回は「濤縣はまゆう太鼓」の方も参加され総勢42人で、まず、マリンメッセの西部ガスの『ガスならできる展』に行き、最新のガス器具や床暖房などを体感しました。

その後、海の中道で「海浜公園」と「マリンワールド水族館」と分かれて楽しみました。

「マリンワールド水族館」は、「イルカやアシカのショー」では、「くじら」までが曲芸をするのに驚くと共に、ジャンプ・回転・輪くぐりなどに感激しました。「トンネル水槽」は、熱帯魚のいる海の中にいるようでした。また館内を貫く「パノラマ大水槽」から見る魚の回遊は、エレベーターの中から見るのがとてもお勧めです。

「海浜公園」は、様々な秋の花々や紅葉でとてもきれいで秋を満喫しました。バラ園は色が鮮やかで香りがいい秋バラが満開で、その中で食べるケーキセットは美味でした。

また、子どもたちは、50種類の動物たちを自然に近い状態で生きている姿を間近にみることができる「動物の森」で、動物に餌をあげたり、抱いたりと身近に動物たちとふれあいました。本当に有意義で楽しいひとときでした。